

●6月度 活動報告

- 6/3 飛び込み「利休梅」の会開催。
蔵元より上井さん入店。⇒①
- 6/4 秋田県由利本荘市「雪の茅舎」フェア開催。
酒肴3種盛セット(ぎばさ・いぶりがっこ・ほたてからあげ)販売開始。
- 6/9 京都店工事開始。⇒②
クラウドファンディングの募集が50%を超える。
- 6/10 山口県周南市「原田」販売開始。⇒③
- 6/11 新潟県新潟市「越後鶴亀を楽しむ会」実施。
蔵元より小林社長、営業の末永さん入店。⇒④
- 6/13 秋田県より「雪の茅舎」佐藤常務来店。⇒⑤
- 6/14 京都酒販主催・京の酒利き酒会に参加。
- 6/18 滋賀県甲賀市「美富久・三連星を楽しむ会」実施。
蔵元より峠杜氏、村田さん入店。⇒⑥
- 6/23 当店プロデュース、京都府与謝郡「伊根満開」「京の春」酒粕生チーズケーキ販売開始。
⇒⑦
- 6/25 山形県鶴岡市「白露垂珠を楽しむ会」実施。
蔵元より相沢社長が着流し姿で入店。⇒⑧
- 6/26 インターネットSAKE情報誌「SAKE TIMES」に京都店オープンが取り上げられる。
新潟県佐渡市「北雪」羽豆専務、影山さん来店。⇒⑨
- 6/27 京都店の酒販免許を取得。
- 6/29 秋田酒造組合主催・秋田利き酒会に参加。
- 6/30 「東梅田・北新地・西天満日本酒ガールほろ酔いまっぷ」取材開始。発行9月末予定。
売上昨対111%で着地。



●商品報告

・日本酒部門 売上ランキング

1位	北雪 純米大吟醸 越淡麗 遠心分離「光」	北雪酒造(新潟)
2位	雪の茅舎 秘伝山廃 純米吟醸 生酒	齋彌酒造店(秋田)
3位	今代司 錦鯉	今代司酒造(新潟)
4位	仙介 純米大吟醸 無濾過生原酒	泉酒造(兵庫)
5位	秋鹿 純米大吟醸 米人心技	秋鹿酒造(大阪)
6位	越後鶴亀 純米大吟醸原酒 父の日ラベル	越後鶴亀(新潟)
7位	真澄 純米大吟醸 山花	宮坂醸造(長野)
8位	三連星 白 純米吟醸	美富久酒造(滋賀)
9位	真野鶴 純米大吟醸 父福	尾畑酒造(新潟)
10位	雪の茅舎 秘伝山廃 純米吟醸	齋彌酒造店(秋田)

⇒父の日は3,000円前後の商品が良く出る。

3月の異動・退職シーズンはお世話になった人向けに5,000円超の商品が良く出たが。。

世の父親の悲哀を感じる。。。。

・店内フード部門PICKUP

「新潟えぐち屋 かにみそ」(新潟)

⇒水っぽさも、生臭さもなく濃厚。かに身もたっぷり入っていてぷりぷりとした食感も楽しめる。

売上は6位のお酒に匹敵。1瓶1,000円だが良く出る。レギュラー化。



北雪 光



雪の茅舎
生酒



越後鶴亀
父の日



三連星
白



真野鶴 父福



かにみそ

店主・浅野のSAKE.BIZ EPISODE 9 -日本酒イベントのあり方-

いつもお世話になっております、株式会社浅野 日本酒店・代表取締役の浅野です。

最近、毎日のように日本酒イベントが開催されており、どれもこれも行きたいとは思いますが、店に入らなければならないことも多く、悔しい思いをしております。。

先日、やっと時間が取れてある県が主催するイベントに参加ができたのですが、人が多すぎて、蔵の方とお話することも、その蔵のお酒をコンプリートすることもできませんでした。また、参加蔵元数が多すぎて、全部回ることもできませんでした。

また、私は実家为新潟なので、3月開催の大きいイベントにも参加しましたが、例え悪く言うとお客様が蜘蛛の糸に群がる亡者のように酒に群がり、酒蔵さんは機械のようにただ酒を注ぐだけで、日本酒を楽しんでるようには見えません。

主催者側は、利益が出るとか、入場者数を誇りたいとかあるかもしれませんが、本当に日本酒好きなら客数と満足度は反比例すると思います。

マーケティング理論でも、「新規客は固定客の5倍のコストがかかる」と言われており、固定客の満足を得ることの重要性を説いています。

新潟のイベントは日本酒の枠を越えて県の観光振興になっている為難しいと思いますが、日本酒を広げるという目的ならターゲットを絞り込む必要があると思います。その上で赤字にならない、利益を出すというマネジメント能力が必要だと思います。

プロフィール・浅野 洋平
新潟県新潟市出身、41歳。
唎酒師・中小企業診断士。
京都店あと1週間です！！



●浅野日本酒店 今後の販売戦略

	7月				8月				9月			
	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W	1W	2W	3W	4W
利き酒	龍力	荘の郷	桃の滴・神蔵	富久錦	英君・英勲	るみ子の酒	瀧自慢	仙介	未定	奥	未定	未定
ハウス酒	夏酒					燗酒	夏酒	琥泉	ひやおろし			
フードマッチング	兵庫	荘の郷	京都	兵庫	京都	三重		いかなごくぎ煮	未定	愛知	未定	未定
店頭陳列	龍力	荘の郷	桃の滴・神蔵	富久錦	お中元		瀧自慢	仙介	未定	未定	未定	未定
イベント	・7/9荘の郷の会 <u>・7/15京都店オープン</u> ・7/30エイケン対決 ・8/6るみ子の酒の会 ・8/20仙介の会 ・9/10奥の会											

※計画は変更する場合があります。

●7/15京都店オープン

1号店梅田店は、酒屋経験のない浅野が考える新しい日本酒の価値観を世に問うための実験店舗的な位置づけでした。

おかげさまでもちまして1号店は、オープンからほぼ毎月黒字、月商も350万円⇒600万円と順調に伸びており、一定程度受け入れられたと考えております。

2号店となる京都店は、1号店の1年半のノウハウを継承し、かつ京都という立地に合わせた形で設計しております。

オープン以降は試行錯誤の繰り返しになると思いますが、現状では以下のコンセプトで組み立てております。

・経営理念

「一人でも多くの方に、日本酒の美味しさ・楽しさを知ってもらいたい」

・ターゲット

20-30代の有職子供なし女性(感度・発信力・消費力が強い)

・ターゲットに響くための施策

買い物帰りにも寄れる、アクセスしやすい立地

おしゃれ感、清潔感のある店舗デザイン

同世代のスタッフ(特に女性多め)を採用

日本酒好きのスタッフが専門知識と共感性を持ってお客様の求める日本酒をご提案

持ち帰りやすい四合瓶のみの取り扱い

併設の立ち飲みバー、および購入時の無料試飲で味を確認して安心して持ち帰りできる





かんがへて 飲みはじめたる 一合の
二合の酒の 夏のゆふぐれ

夏になるといつもこの若山牧水の短歌を思い出す。1人静かに飲み始め、1合、2合と杯が進んでゆく。場所は部屋の中か縁側か。貧しい暮らしの中で、しみじみと酒の旨さを味わう牧水の様子が目に浮かぶ。

若山牧水という歌人は、「酒仙」の異名を持つほど酒を愛し、酒の歌を数多く詠んだことでも知られている。たいそうな酒豪で、1升くらいは飲めたようだ。時には朝から飲み始めることもあったという。また、仲間と飲むよりも1人で飲むことを好んだというから、これは本当に筋金入りの酒飲みだ。

そんな牧水が腎臓を患い、医者に禁酒を命じられた時に詠んだ歌がある。

人の世に たのしみ多し 然れども
酒なしにして なにのたのしみ

この世に楽しみは多いけど、酒がなくて何が楽しいねん！と、そういう素直な感情があふれていて親近感がわく。実は私も今年に入ってから大病を患い、1ヶ月間、ひと口もお酒を飲むことができなかった。ようやく解禁になり、飲んだ最初の1杯の美味しかったこと！涙が出るほど感動した。

そういえば、九州のある蔵へ取材に行った際、その蔵元さんが若い頃に肝臓の病気になって12年ほどアルコールを一切飲めなかったという話を聞いた。病気がよくなって12年ぶりに飲んだ時の酒の味と言ったら、それはもう言葉で表現できるようなものではなく、涙が出るほど旨かったそうだ。12年の重みを感じ、話を聞いているこちらまで泣きそうになった。

それほどに うまきかと ひとの間ひたらば
何と答へむ この酒の味

牧水の短歌を借りれば、きっとこんな気持ちだったのではないだろうか。何はともあれ、健康第一。皆さんは元気に毎日美味しいお酒を飲んでくださいね。

プロフィール

山王かおり(さんのうかおり)

フリーライター、唼酒師

ライター歴20年。取材記事をメインに、幅広いジャンルと媒体で書いています。新中野工業(株)発行の『酒蔵萬流』でも執筆中。

